



えぽ九州だより

VOL.22



EPO KYUSHU 2025

九州地方環境パートナーシップオフィス・九州地方ESD活動支援センター
ニュースレター

ネイチャーポジティブ推進に向けた自治体や企業への期待

自然共生サイトの広がり

自然共生サイトは、2023年から認定が始まり、2025年度から法制化され「地域生物多様性増進活動実施法」として施行されました。認定の主務大臣は、環境省・農水省・国交省の3省となり、2025年度までに、全国で569件の認定件数となり、九州内（沖縄を含む）の自然共生サイトは、62件を数えるまでになりました。その中で、奄美大島の瀬戸内町にある自然共生サイトでは、マングローブが分布する入江の浜で、地元高校生がマングローブ（メヒルギ）の種子を拾い集め、校内で育てた苗木を植栽して、減少しゆくマングローブの保全活動をしています。植樹祭では、奄美大島にある3つの自然共生サイトおよび認定サイトの山川町漁協が協力参加し、昼のお弁当では、自然共生サイト内で水揚げされた魚の竜田揚げ、五穀米等が提供され、参加した高校生は、そのお弁当を頬張りながら、瀬戸内町漁協および山川町漁協が海の保全についての講演を聞き、また、環境省からは、自然共生サイトの意義を話し、産官民が一体となり、未来の人材育成を行いました。まさに自然共生サイトの輪が生み出したイベントでした。

企業による自然共生サイトのイベント

2025年11月、大丸福岡天神店前のアーケードに間伐材を組み合わせた、今まで見たこともない巨大なクリスマスツリーが登場しました。このクリスマスツリーの原材料は、自然共生サイトの山を持つ田島山業の間伐材を組み合わせたものでした。株式会社博多大丸の企画で「Legacy ～未来に続くいのちの光～」をコンセプトに、自然共生サイトをテーマにして約1ヶ月間開催されたものです。これには賛同頂いた九州内36件の自然共生サイトの紹介ボードを展示し、広く一般の方に自然共生サイトの意義について広報して頂きました。このように民間企業によって行われた企画は、全国の先駆けであり、九州の地より、自然共生サイトの機運が動きだした証でもあります。九州内を駆けずり回って、自然共生サイトの認定に奔走した私にとっても、大変に嬉しい事でした。

熊本サミット

2026年7月には、グローバルネイチャーサミットが熊本市で開催予定です。これには、世界の企業、ネイチャーポジティブの活動をしている世界中の方々が、熊本に集結して、未来の地球環境の保全、持続可能な生活空間の実現に向けて協議されます。九州には、先に挙げた産官民一体のイベントが各方面で行われており、潜在的な力が備わっています。是非、熊本サミットを契機に、九州内の地場産業、地元NPO団体、自治体がこのサミットに結集して、ここに九州ありと言わんばかりの盛り上がりのある展開を期待したいと思います。



環境省九州地方環境事務所
自然環境調整専門官

小林 悟志 氏



PROFILE

2004年名古屋大学大学院人間情報学研究科博士課程(後期)修了(博士(学術)専門:森林生態学、分子生態学、自然災害、社寺林)。

国立情報学研究所プロジェクト研究員や東京大学分子細胞生物研究所協力研究員などを経て、第52次日本南極地域観測隊(夏隊員)モニタリング生態系変動陸上生物担当として従事。

環境省九州地方環境事務所自然環境調整専門官(現在に至る)。

九州・沖縄のネイチャーポジティブ推進に向けたパートナーシップ形成

令和6年度から7年度にかけて、ネイチャーポジティブや自然資本の保全と活用をテーマとしたパートナーシップ形成の場作りを行ってきました。令和8年度に熊本市で開催されるグローバルネイチャーポジティブサミットに向け、九州・沖縄でも生物多様性に関する機運が高まるなかこれらの企画は活動地域や所属団体の垣根を超えた、多様な人材のネットワーキングの機会として機能してきました。

「自然共生サイト」をはじめとする身近な自然資本を活用した連携と展開

企業等に向けた多様なフィールドでの活動情報提供

企業活動とネイチャーポジティブ「自然資本の活用と保全セミナー」

開催日 2024年7月4日(木)

北九州市で開催された環境技術展示会「課題解決EXPO2024 エコテクノ」展にて、企業における自然資本保全の考え方、「自然共生サイト」などの制度活用をテーマに、セミナーを開催しました。



離れた海域の活動者をゆるやかにつなぐ

島しょ・里海の自然資本活用 オンライン意見交換会

開催日 2025年2月12日(水)

九州・沖縄特有の島しょ地域や里海に着目し、身近な自然資本の活用と保全についてオンライン意見交換会を実施。自然共生サイト登録地の実践者からの取組事例や情報提供を得ながら、意見交換パートでは活動のヒントやお悩みの共有がありました。



九州・沖縄全体を巻き込んだ広域なネットワークの形成

「ネイチャーポジティブ社会を九州の地から」シンポジウム

開催日 2025年5月22日(木) 会場 北九州市立いのちのたび博物館

主催 九州地方環境事務所 共催 北九州市

国際生物多様性の日である5月22日に、ネイチャーポジティブ経済に関する最新の動向を知り、その象徴ともなる自然共生サイトの活動(生物多様性増進活動)を推進していくため、九州地方環境事務所にてシンポジウムを企画。登壇した北九州市市長により「ネイチャーポジティブ宣言」が出されたり、自然共生サイトに関する九州・沖縄全域での広いネットワークづくりができたりと、今後のネイチャーポジティブ推進に向けた大きな機運づくりができました。



国際的なサミットに向けた連携と展開

ネイチャーポジティブ推進セミナー

「グローバルネイチャーポジティブサミットを盛り上げよう！」

開催日 2026年3月18日(水)

会場 熊本地方合同庁舎A棟1階ホールおよびオンライン

主催 環境省九州地方環境事務所

共催 熊本市、一般社団法人九州経済連合会

2026年7月に熊本市で開催される「第2回グローバルネイチャーポジティブサミット」を踏まえ、国内外の最新情報や先進事例の共有、九州内外の行政、企業との対話を通じ、ネイチャーポジティブに関する理解を深める場となりました。



ネイチャーポジティブの実現に向けた取組

自然共生サイト

ネイチャーポジティブの実現に向けた取組の一つとして、環境省では、企業の森や里地里山、都市の緑地など「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を「自然共生サイト」として認定する取組を令和5年度から開始しました。認定区域は、保護地域との重複を除き、OECM(Other Effective area-based Conservation Measures: 保護地域以外で生物多様性保全に値する区域)として国際データベースに登録され、30by30目標の達成に貢献します。

「自然共生サイト」の対象となる区域例

企業の森、ナショナルトラスト、バードサンクチュアリ、ビオトープ、自然観察の森、里地里山、森林施業地、水源の森、社寺林、文化的・歴史的な価値を有する地域、企業敷地内の緑地、屋敷林、緑道、都市内の緑地、風致保全の樹林、都市内の公園、ゴルフ場、スキー場、研究機関の森林、環境教育に活用されている森林、防災・減災目的の森林、遊水池、河川敷、水源涵養や炭素固定・吸収目的の森林、建物の屋上、試験・訓練のための草原…

九州・沖縄では
62件の自然共生サイトが
認定されています



※令和8年3月時点

明治グループ自然保全区 くまもと こもれびの森®

KMバイオロジクス株式会社一熊本県菊池市

阿蘇外輪山の麓、菊池市に広がる「こもれびの森」は、里山の自然が今も息づく明治グループの自然保護区です。希少種を含む多様な動植物が確認されており、計画的な保全管理と社員への環境学習、地域連携を通じ、生物多様性保全に取り組んでいます。

*「こもれびの森」は明治グループKMバイオロジクス(株)の登録商標です。



山川の海のゆりかご

山川町漁業協同組合一鹿児島県指宿市

鹿児島県薩摩半島の最南端、指宿市山川町の自然共生サイト認定地では、地元の漁師が中心となって漁業と海域の環境保全の両立を目指して活動しています。

近年では海洋環境の変化からアマモ場の減少と磯焼けの拡大が課題となっているなかで、地域内の漁師仲間との合意形成と域外の企業連携を進めながら、アマモの再生やブルーカーボン・クレジットの創出などに取り組んできました。自然共生サイト認定により、地域水産物の価値創出も期待されています。



九州・沖縄から
世界へ!

2026年7月14日(火)・15日(水) 第2回グローバルネイチャーポジティブサミット開催!

会場 熊本城ホール

グローバルネイチャーポジティブサミット2026では、自然損失の食い止めと回復に向けて、企業、金融機関、自治体、研究者、市民社会のリーダーが一堂に集結。民間の取組や成果について、世界に向けて発信・共有する国際会議です。



GLOBAL
NATURE
POSITIVE
SUMMIT
2026
KUMAMOTO JAPAN

高校と連携した地域ぐるみのESDプラットフォーム活動

九州ESDセンターでは、パートナー団体や全国センターと共に探究活動に取り組む高校と地域社会の具体的な連携を促進させる地域ぐるみのESD活動を展開しました。プロジェクトでは協働ノウハウを活用し、高校生と地域企業や専門家など多様な主体とのネットワークづくりを支援し、探究活動の推進ビジョンを描くことで地域の課題に向き合う人材育成を加速させました。

熊本市立必由館高等学校×九州ESDセンター

沖縄県立辺土名高等学校×MIRAIME.Lab

鹿児島県立屋久島高等学校×NPO法人HUB&LABO Yakushima(地域ESD拠点)

高等学校における気候変動教育プログラム実証事業(全国センター)

ヒアリングによる地域ニーズの把握

高校連携に向けた課題把握

- ・地域の現状把握、複雑化する地域課題への対応
- ・高校探求活動における課題整理

ESDセンターが活動精度を高める伴走支援を展開

コンセプトシートの策定と更新

- ESDネットワーク活動の現況分析
- ESD推進課題整理
- コンセプトシート

ドラフト(たたき台)を作成し論点整理。

新規ステークホルダーの獲得

- コンセプト共有
- コアメンバー開拓
- 第三者視点の導入

コンセプトペーパーをもとに、巻き込みたいステークホルダーの見定め。

ミーティング

- 地域課題共有
- ESD資源の発見
- ネットワーキング

ミーティングのゴールや獲得目標などを確認し、継続的な取り組みなどに助言。

九州・沖縄地域ESDアドバイザー

ネットワーク形成・プラットフォーム化に向けたフィードバック

相乗効果・成果共有と発信

アウトプット

- ロードマップを加速させるツール
- ・プラットフォームのコンセプトシート
- ・ステークホルダーリスト

中期的なロードマップの共有

- ・ありたい地域の姿と担う人材
- ・ローカルSDGs達成の道筋
- ・持続可能な地域像の実現

地域ESDフォーラム開催

高校と地域が連携する探求活動をもとに各学校の活動紹介や生徒間の交流と学びを深めるフォーラムを開催しました。フォーラムにあわせて阿蘇地域でのフィールドワークを行い、地域課題とサステナビリティについて考えるプログラムを実施するなど、相互ネットワークを形成しました。



ESD全国フォーラムでの発信

- 高校と連携した地域ぐるみのESD活動をESD推進ネットワークに向けて紹介。
- 沖縄地域のESD支援成果である、沖縄県立辺土名高等学校との連携についてMIRAIME.Lab岸信氏よりポスターセッションにてプレゼンテーション。



熊本市立必由館高等学校
×
九州ESDセンター

文理、芸術、生活デザインなど多彩なコースを備える文理総合探究科を開設し、令和6年度から「必由学」を開講。生徒自身が課題を発見し解決へ挑戦する「地域創生同好会」の活動は、地域の企業や社会施設をパートナーに、探究活動に関する先駆的な取り組みとして展開されています。

プロジェクトでは、地域資源や課題解決に向け調査やワークショップ、地域交流型のボードゲームを生徒が主体的に企画するなど、企業等の地域パートナーとの協働をもとに取り組みを進めました。必由館を会場にした学びあいフォーラムや、学校ツアー、阿蘇フィールドワークをとおり、他地域の高校生と地域課題解決や活動づくりの情報交換を行いました。



沖縄県立辺土名高等学校
×
MIRAIME.Lab

沖縄県北部の「やんばる」地域は、世界自然遺産として特別天然記念物の野鳥ノグチゲラなど貴重な野生生物の宝庫となっています。この地域で活動する辺土名高校自然環境科やサイエンス部の活躍は、全国から注目を集めており、校内には周辺の生物を飼育展示する「辺高 生き物博物館」が設置されています。

プロジェクトでは、地域コーディネータのMIRAIME.Labが、辺土名高校、北山高校、名護高校の有志によるフィールドワークを実施し、森林保全・ネイチャーポジティブ推進に向けたユースからの提案が行われました。これからの高校・企業・団体・行政等とのESDパートナーシップづくり、探究活動の深化を担うプラットフォームづくりが構想され、活動の展望に期待が高まっています。



鹿児島県立屋久島高等学校
×
HUB&LABO Yakushima
全国センター「高等学校における気候変動教育プログラム」実証校

島内唯一の公立高校である屋久島高校では、島の将来を担い、国際社会でも活躍できる人材育成を目指す「情報ビジネス科」「環境コース」などが設置され、「世界自然遺産」の環境と歴史と文化を基盤においた教育が実践されています。

全国センターが展開する気候変動教育プログラム実証校として、地域ESD拠点のHUB&LABO Yakushimaが多角的なコーディネートを行いながら、気候変動や地域活性化、企業との協働をテーマにESDプロジェクトが展開されました。

プロジェクトの参加生徒は、地域課題解決や、島しょ地域における探究活動という視点で、九州センターが支援を行う2校との交流型フィールドワークに参加し、地域間の学び合いを行いました。



令和7年度地域ESD学びあいフォーラム

「地域を好きになるESD推進プロジェクト」や気候変動教育の実証に参加する高校、プロジェクトを実施する中で得た気づきや知見を発表し、地域のESD活動実践者に知見等を共有する地域フォーラムを開催しました。各学校からの実践報告のほか、有識者からのアドバイスや講評をとおして、探究に取り組む高等学校の内外から、多角的に地域ぐるみのESD活動について共有する場となりました。

開催日 令和7年8月21日(木)

会場 熊本市立必由館高等学校 & オンライン配信

プログラム

- 1 開会、趣旨説明
- 2 各校の探究/サステナビリティ活動紹介(各学校 15分)
 - ◎ 熊本市立必由館高等学校 ◎ 鹿児島県立屋久島高等学校
 - ◎ 沖縄県立辺土名高等学校
- 3 各校・地域の取組へのアドバイス
長崎県教育庁 産学連携コーディネーター 長尾 和弘氏
- 4 参加者意見交換と質疑応答
- 5 全体の講評
国立大学法人福岡教育大学教育学部
社会科教育研究ユニット 教授 石丸 哲史氏

エクスカージョン:地域創生同好会による必由館高校 学校ツアー



フォーラム参加者の声

- ◎ 高校生が課題意識をもって、取り組んでいることが素晴らしいと感じた。
- ◎ 企業の意識や学校教育の意識の変化を感じる一方、まだ一般化されているとはいえ、こういった素晴らしい取り組みが広がってほしい。
- ◎ 高校で行う「総合的な探求の時間」で、環境に関係する活動が行われていることを初めて知った。活気ある発表を聞くことができ、こちらにも励みになった。
- ◎ 教育プログラムを運営していく中で、高校生が自分の手持ち資源を活用して課題にチャレンジされることに期待したい。
- ◎ 高校生のパワーがとてつもないものになっていると感じた。行政機関として、高校生等と連携する機会があればぜひ行っていきたい。

交流型ESDフィールドワーク

ESDフォーラムに登壇した3校の高校生と教員、コーディネーターが、それぞれの地域で探究学習などに取り組む活動を相互参照しながら、独自の活動を学び合い、ともに考え深める機会創りとして、阿蘇地域のフィールドワークを実施しました。参加した生徒のみなさんは3日間のプログラムから、ネイチャーポイントや、持続可能な開発、自然災害など多岐にわたるテーマに沿って、探究活動に関する普遍的な視点を獲得しました。また相互参照の機会によって、フィールドワークで得られた知見を、今後の具体的なアクション、協働プロセスへ反映するためのアイデアが生まれ、交流をとおして共有されました。

開催日 令和7年8月22日(金)～23日(土)

プログラム

- 1 くまもとSDGsミライパーク「SDGs探究プログラム」体験
- 2 阿蘇草原と地下水フィールドワーク
 - ◎ 白川水源エリアの散策
 - ◎ 阿蘇山上ビジターセンター・草千里ヶ浜の視察
 - ◎ 阿蘇火山博物館の見学
- 3 地域のレジリエンスフィールドワーク
 - ◎ 南阿蘇村震災遺構 数鹿流崩之碑展望所 視察
 - ◎ 熊本地震震災ミュージアムKIOKU 見学
 - ◎ 菊陽町で拡大する半導体工場エリア視察



フィールドワーク参加者の声

- ◎ 様々な視点からSDGsについて考えられ、充実したフィールドワークだった。
- ◎ 企業の環境やSDGsに向けた努力を知って、自分もこういった仕事に就きたいと思った。
- ◎ 沖縄では感じられない火山の怖さと魅力を見られてとても面白かった。
- ◎ 阿蘇地域の自然環境の豊かさと、その保全の大切さを実感した。
- ◎ 熊本地震の規模を身近に感じ、報道を見るだけでは伝わらないものがあった。
- ◎ 地震発生当時小学生だった自分には鮮明に避難した時の記憶が蘇った。
- ◎ 震災遺構を視察して、改めて日頃からできる対策をしておこうと思った。
- ◎ 地震の少ない沖縄に住んでいることから、島民として地震の怖さを実感できた。
- ◎ 神話や歴史文化が、地殻変動や自然災害と結び付いていることの重要性を認識した。

九州・沖縄の地域ESD活動推進拠点 (33拠点)

ESD活動を支援・推進する組織・団体等が「地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)」に登録され、九州地方ESD活動支援センターとともにESD推進ネットワークとして、各地域・各分野で取り込まれるESDを様々な形で支援しています。

- 福岡**
 - 国立大学法人福岡教育大学
 - 大牟田市教育委員会
 - 北九州ESD協議会
 - NPO法人NGO福岡ネットワーク
 - 国立大学法人九州大学水素エネルギー国際研究センター
 - 国立夜須高原青少年自然の家
 - (一社)まほろば自然学校
 - NPO法人博多ミツバチプロジェクト
- 佐賀**
 - 鹿島市建設環境部ラムサール条約推進室
 - 認定NPO法人地球市民の会
 - NPO法人唐津Farm&Food
 - 唐津市役所市民環境部環境課
 - NPO法人唐津環境防災推進機構KANNE
- 長崎**
 - 国立諫早青少年自然の家
 - 自然のあそびば「へんちくりん」
 - (公財)肥後の水とみどりの愛護基金
 - (一社)環不知火プランニング
 - (公財)再春館一本の木財団
 - 国立阿蘇青少年交流の家

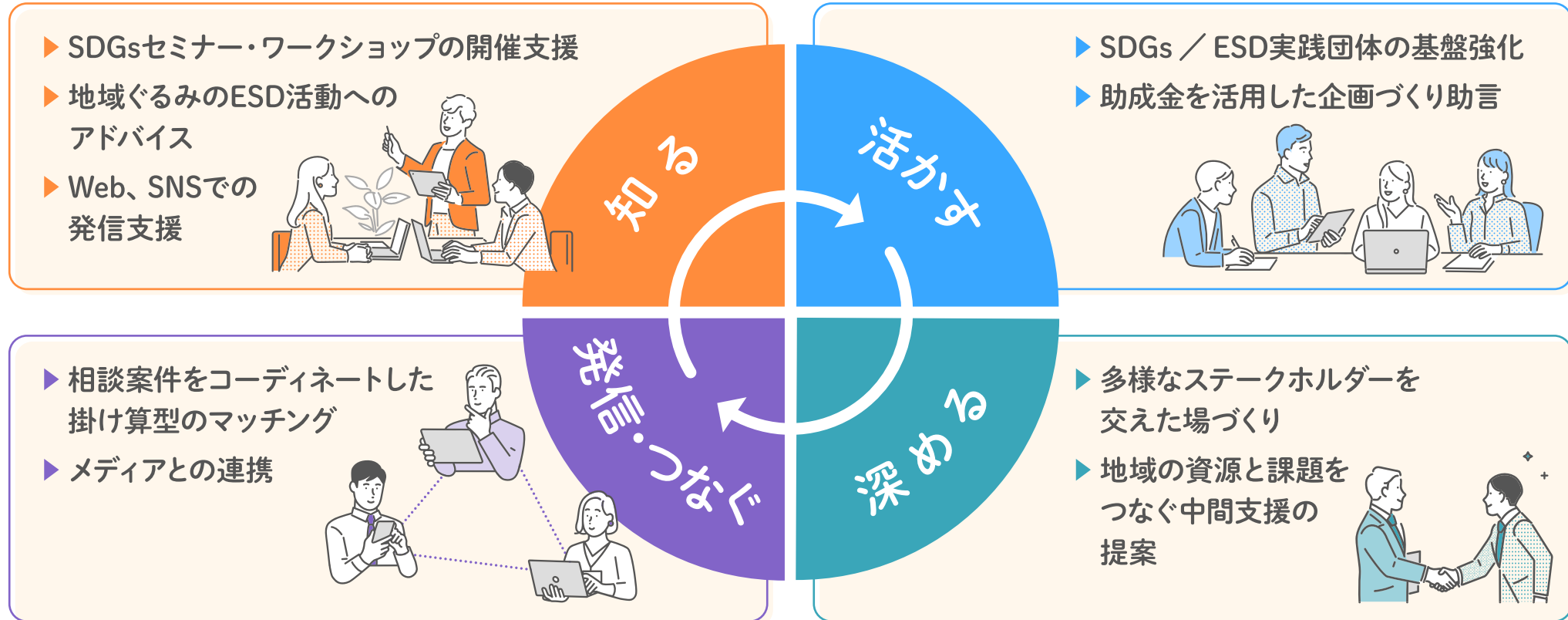
- 大分**
 - NPO法人おおいた環境保全フォーラム附属はごこネイチャーセンター
 - 認定NPO法人地域環境ネットワーク
 - NPO法人おおいた環境保全フォーラム附属ととろの森自然学校
- 宮崎**
 - 宮崎県環境情報センター
 - 学校法人宮崎学園
- 鹿児島**
 - NPO法人くすの木自然館
 - そらのまちほいくえん
 - 屋久島環境文化研修センター(公財屋久島環境文化財団)
 - (一財)鹿児島県環境技術協会
 - NPO法人HUB&LABO Yakushima
- 沖縄**
 - (一財)沖縄県公衆衛生協会
 - 一般社団法人沖縄県女性連合会
 - NPO法人Okinawa Hands-On NPO
 - (一社)やんばるビジョン



地域ESD拠点の取り組み等の詳細については、
下記の九州地方ESD活動支援センターのWebサイトよりご覧ください。
<https://kyushu.esdcenter.jp/2018/04/10/suishinkyoten/>

2026年3月現在

活動の悩みを解決！ SDGs / ESDコンシェルジュとして 地域づくり・人材育成・情報発信をコーディネート



SDGs / ESDに関する課題解決に向けて、多様な分野・地域のネットワークによる活動支援、人材育成に関する講師や専門家の紹介、各種情報の提供および発信協力等、ワンストップのコンシェルジュとしてご相談をお受けしています。※相談に伴う講師派遣等の際には謝金・旅費の実費をご負担お願いいたします。

SDGs/ESDコンシェルジュ相談対応の流れ

相談者からの
問合せ

- ◎ 相談者から、メール・電話・訪問などによるお問合せ

相談内容の
ヒアリング

- ◎ 必要に応じて、対面・オンラインなどによるヒアリングを実施

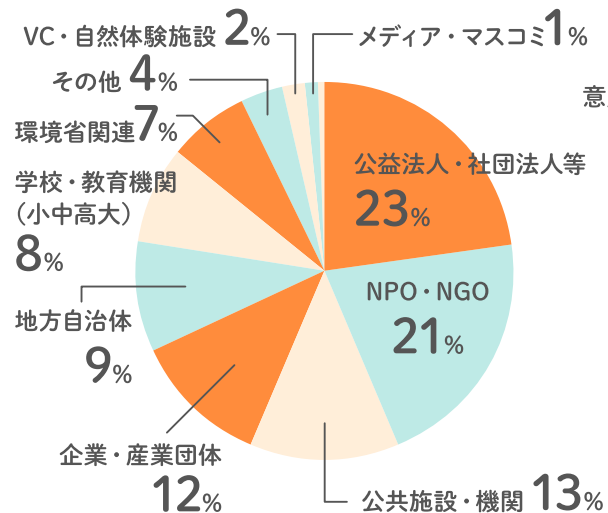
対応の検討

- ◎ 対応について内部で検討
- ◎ 発信等の依頼であれば、ウェブ・メルマガなどで対応

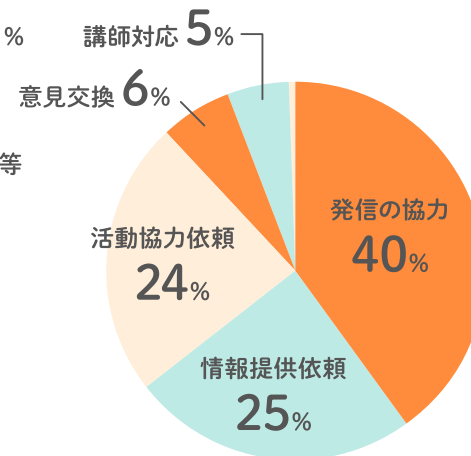
フィードバック

- ◎ 講師対応や助言
- ◎ プログラム企画への関与
- ◎ 連携業務として企画提案など

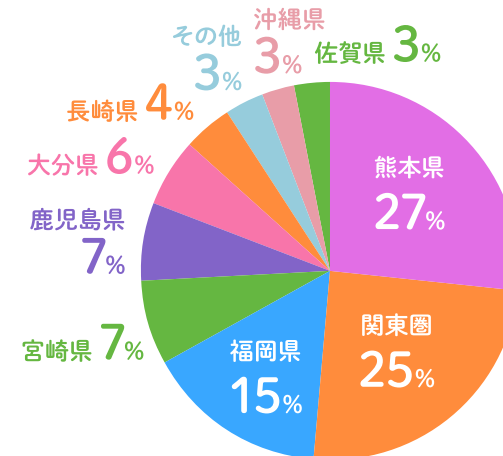
相談者属性



相談内容



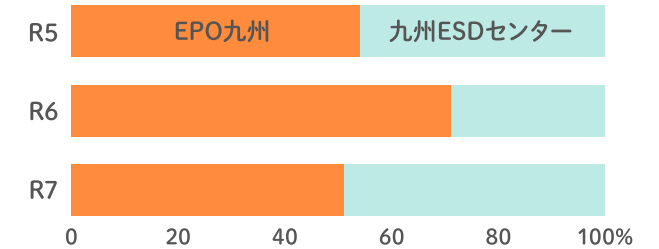
相談者都道府県



※2023～2025年の相談案件より

2023-2025の相談対応成果

相談対応件数：270件



掛け算型のコンシェルジュ活動

- ◎ 水俣・水俣病の啓発に取り組む水俣・写真家の眼×地球環境基金企画×自然体験団体とのネットワーク支援
 - ◎ 環境活動に取り組むピータイム(沖縄県内企業)×環境教育支援に取り組むMIRAIME.Lab×漫湖水鳥・湿地センターによるCSR活動支援
 - ◎ 地域循環共生圏×山都町SDGs研修(地区・職員・町民・ステークホルダー対象)×専門家支援
 - ◎ 長崎市市民活動センター・熊本県NPOセンター×トヨタ財団助成金説明会×個別団体支援・ノウハウ共有
 - ◎ 佐賀県温暖化防止活動推進センター×企業連携ワークショップ×温暖化センターブロックネットワーク
- など、複数の支援相談を組み合わせることで複合的に対応することで支援効果を高めた。

重点事例 協働に基づく持続的な企業CSR活動へのマッチング支援

相談企業

株式会社ピータイム

沖縄本島、石垣島、久米島、宮古島
等で遊技場、レストラン、
福祉といった多様な事業を展開。



相談内容

沖縄県内にネットワーク展開する企業として、
ネイチャーポジティブに向けた活動を創出した
い。社員の自主性を高め、持続的な活動を
模索しているが、実践やパートナーづくりの
手法についてアドバイスがほしい…。

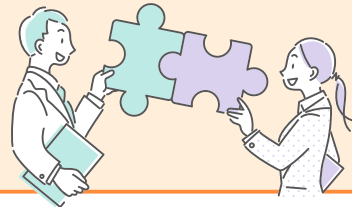


EPO九州

オンラインによるヒアリングでニーズ把握

地域活動コーディネーターの紹介

全国フォーラムでの活動の発信



コーディネーター

合同会社 MIRAIME.Lab

同じく沖縄県内で、環境活動の
コーディネーターとして、企業や
団体への中間支援を実践

提案内容

社内コアメンバーによるキックオフ
月例ミーティングの開始
保全活動団体との
マッチング



エコ活ハッチャー隊活動の波及

▶ 社内

- ◎ コアメンバーの活動から、全社的な取り組みへの発展
- ◎ 若手社員が活躍する機会づくり
- ◎ 社員が地域への理解を深めながら、ビジネスパーソンとして成長
- ◎ 店舗からの提案で新たな活動創出

▶ 社外

- ◎ 地域団体と社員、その家族によるパートナーシップアクション
- ◎ 店舗から地域へネイチャーポジティブの考え方を発信
- ◎ 地域課題、環境問題に関心の薄い市民へのアプローチ

- ◎ 協働を基調とした活動は、地域における環境問題への関心層を新規開拓。
- ◎ 2024年3月、趣旨に賛同する中核社員による「エコ活ハッチャー隊」を発足
- ◎ 月例ミーティングをとおしたコーディネーターによるきめ細やかな調整
- ◎ ビジネスパーソンからのニーズと、地域課題・環境課題とのすり合わせ
- ◎ 地域で活動する保全団体と、店舗スタッフが協働する外来植物防除活動の実施
- ◎ 2年間で9回にわたる広域的な防除活動によるネイチャーポジティブの推進





サステナビリティの起点 「水俣」でのフィールドワーク展開

熊本県水俣市をフィールドに、環境再生保全機構で公害健康被害の補償・予防業務を担当する職員を対象とした研修を運営しました。また、同地域にて九州・沖縄地域の環境NPO経営者を対象に、スタディツアー型のダイアログを実施しました。2つの企画では、公害記録の継承をテーマに中間支援機能を提供する一般社団法人水俣・写真家の眼と連携し、地域と水俣病を理解する研修プログラム・フィールドワークを展開。環境行政の起点となった水俣市から、協働の機運づくりと人材育成ネットワークの強化を行いました。

公害健康被害補償・予防研修

令和7年10月22日(水)～24日(金)

環境再生保全機構は、民間の取組等によって生物多様性の保全が図る実施計画を環境省が認定する「自然共生サイト」の関連業務を行っています。この計画の実施区域に選定されている、菊池市の「こもれびの森®」を実際に訪問し、森を所有するKMバイオロジクス(株)の担当者との意見交換を行いました。

水俣市では、水俣病の語り部講話や、まなびの丘の各施設見学で、公害発生から現在に至る歴史を学ぶプログラムを運営しました。水俣で環境経営や循環社会形成に取り組む企業視察を実施し、職員が環境行政の在り方や公害発生の歴史に基づく多角的な知見を獲得する機会を創出しました。

「こもれびの森」は明治グループKMバイオロジクス(株)の登録商標です。

環境を軸とした地域課題解決に向けた戦略検討業務 みなまたフィールドワーク

【事前オンラインミーティング】令和7年10月29日(水)

【フィールドワーク】令和7年11月26日(水)～27日(木)

次世代の環境保全を担う若手NPO経営者を対象として、スタディツアー型のダイアログを実施しました。「水俣・写真家の眼」が提供する対話を重視したプログラムを体験することで、地域学習の在り方について意見交換を行ったほか、事業化など活動の持続性に向けた戦略について議論を行うプログラムを提供しました。ダイアログからは、期待される中間支援機能、地域の学びをデザインする機能が明らかとなり、地域課題解決を支える基盤的役割を担う九州・沖縄地域の環境NPOのネットワーク形成が大きく進展しました。



訪問した水俣地域の研修拠点

水俣病歴史考証館、JNC水俣製造所、エコパーク水俣(水俣病慰霊の碑・親水護岸)
水俣市立水俣病資料館、熊本県環境センター、
水俣環境アカデミア

地域グリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携

これまでに、脱炭素・循環経済・自然共生といった環境三課題に対して、EPO九州では多様なステークホルダーの連携・協働してアプローチするための取り組みを支援してきました。

自然共生

自然共生サイト、ビジターセンター

漫湖水鳥・湿地センター管理運営協議会と連携した企業連携促進研修を展開し、鹿島市ラムサル条約推進協議会のノウハウを生かした戦略づくりを支援。

連携POINT 協議会の自治体担当者を交えた壁打ち型の研修を企画・実施し、次年度以降の取り組みに向けたビジョンを共有。



循環経済

経済団体、人材育成、経済・教育連携

地域脱炭素

温暖化センター、デコ活企業、先行自治体

福岡教育大学・九州経済連合会・九州地方環境事務所・EPO九州の4者連携による学生セミナーを企画運営。

連携POINT 学生セミナーに向けて、福岡教育大学と九州経済連合会が連携したESD授業での企業講演が実現し学習効果を高めた。



九州・沖縄の地域温暖化センターと連携したブース発信、デコ活交流会を開催し、地域脱炭素のネットワークを形成。

連携POINT 脱炭素チャレンジカップ入賞団体を交えることで、エコテクノ出展企業へのアピール度を高めた。ブース運営を地域センターが担うことで、タッチポイントも強化。



地域
グリーン社会の
実現

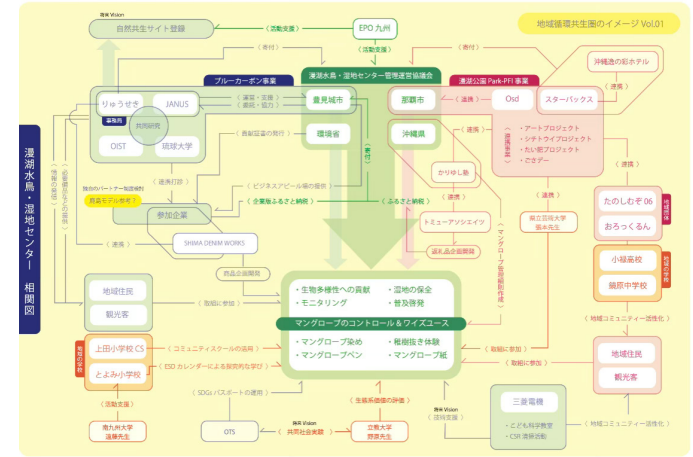


漫湖水鳥・湿地センター管理運営協議会研修

開催日 2026年1月6日(火)～8日(木)

場所 鹿島市ほか有明海沿岸

漫湖水鳥・湿地センター管理運営協議会の研修として、R6年度企画からラムサール登録湿地の先進地域として関わりを続けてきた佐賀県鹿島市を訪問し、協議会運営の合意形成や課題解決、ワイズユースを軸とした企業連携の具体的事例に触れることで、ステークホルダーとの関係性構築について知見を共有しました。



協働ハブ化に向けたマンダラ図

ポテンシャル向上に向けた研修 2023-2024(起)

- ◎ 漫湖水鳥・湿地センターと連携し、自治体や連携する企業等との対話の場、体験プログラムを含む研修企画として設計。
- ◎ ラムサール湿地保全・活用に先進的に取り組む佐賀県鹿島市を講師に、実践的な講義とステークホルダー間のワークショップを実施。
- ◎ ラムサール登録湿地の保全と活用をキーワードに取り組む2地域のネットワーキング。

協働ハブ化に向けた課題整理 2025(承)

- ◎ 漫湖水鳥・湿地センターでスターバックスコーヒー・ジャパンなどとの協働が進み、センターをハブとした地域と企業を接続させる協議会の合意形成プロセスを点検。
- ◎ 研修の獲得目標をステークホルダーとの連携促進だけでなく協議会内部の基盤強化も加えて企画を仕立て直し。
- ◎ 講義形式ではなく、外部アドバイザーとの壁打ちをもとに打ち手を探る方式へ。

協働ハブ化に向けた基盤強化 2025-2026(転)

- ◎ 湿地センターと企業等の連携に向けた機動力、体制づくりのノウハウ獲得を目的に、先進地域・団体として鹿島市および同ラムサール登録湿地への視察研修を実施。
- ◎ R7年度後半のプログラム、会合等をブラッシュアップし、協議会関係者や連携先企業に研修内容をフィードバックする中で、中長期的な連携体制強化につながるノウハウを獲得する。
- ◎ 地域ESD拠点登録し、人材育成の拠点化。

EPO九州による漫湖水鳥・湿地センターの強みを活かしたプラットフォーム支援

九州・沖縄 地球温暖化防止活動推進センター と連携したデコ活発信

九州・沖縄の地域温暖化防止活動推進センターと全国センター、EPO九州が連携し九州各地でデコ活発信。EPO九州が幹事センターやコーディネーターと企画調整を行い、合同ブース出展を提案するとともに、交流会の企画を運営。脱炭素チャレンジカップと連動した入賞者との対話の場づくりを進め、地域ならではのコミュニケーションを創出しました。



かごしま カーボン ニュートラルフェアとの連携

開催日 2025年12月20日～21日
会場 カクイクス交流センター

- ◎ 合同ブース・パネル展示
- ◎ 鹿児島版デコ活交流会
- ◎ 気候適応ゲーム体験会
- ◎ 地域センターブロック会議



デコ活地域交流会と デコ活ブースの共同出展

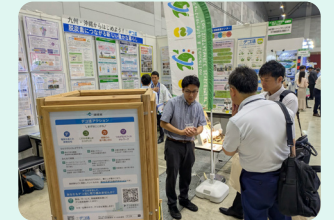
開催日 2025年7月2日～4日
会場 北九州メッセ

- ◎ 合同ブースの共同運営
- ◎ デコ活交流会の開催

【実践事例報告】

(株)球磨村森電力
SAGA COLLECTIVE 協同組合
(株)シンク・オブ・アザーズ
econetユース

- ◎ 地域センターブロック会議



みんなでデコ活2025との連携

開催日 2026年1月31日～2月1日
会場 宮崎科学技術館

- ◎ 地域センターパネル展示
- ◎ 鹿児島センター エコ隊長出張省エネ家電ショー!



課題解決EXPO エコテクノ2025 地球温暖化防止活動推進センターと共同出展

開催日 2025年7月2日(水)～7月4日(金)

会場 北九州メッセ

EPO九州では、毎年7月の環境技術展示会「エコテクノ」に出展しています。今回は、九州・沖縄の地域温暖化防止活動推進センターと共同でブース出展を行い、脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動「デコ活」についての情報発信とともに、新たなネットワークづくりの機会を創出しました。また、展示会の最終日には「デコ活地域交流会」も実施しています。



学生向けセミナー 資源循環の最前線 ～企業と学生が共に考えるサーキュラーエコノミー社会～

開催日 2026年2月4日(水)

会場 福岡教育大学共通講義棟 Edu Co × Lab およびオンライン

主催 九州地方環境事務所

共催 一般社団法人九州経済連合会、国立大学法人福岡教育大学

協力 九州地方環境パートナーシップオフィス

話題提供

「循環共生型の社会構築に向けた環境省の取組について」

環境省 九州地方環境事務所 統括環境保全企画官 野口 淳一郎 氏

企業の取組紹介

霧島酒造株式会社グリーンエネルギー本部 志比田プラント課 課長 藤原 誉司 氏

株式会社ECOMMIT 営業本部商業・生活インフラ営業部 ジェネラルマネージャー 谿(たに) 拓志 氏

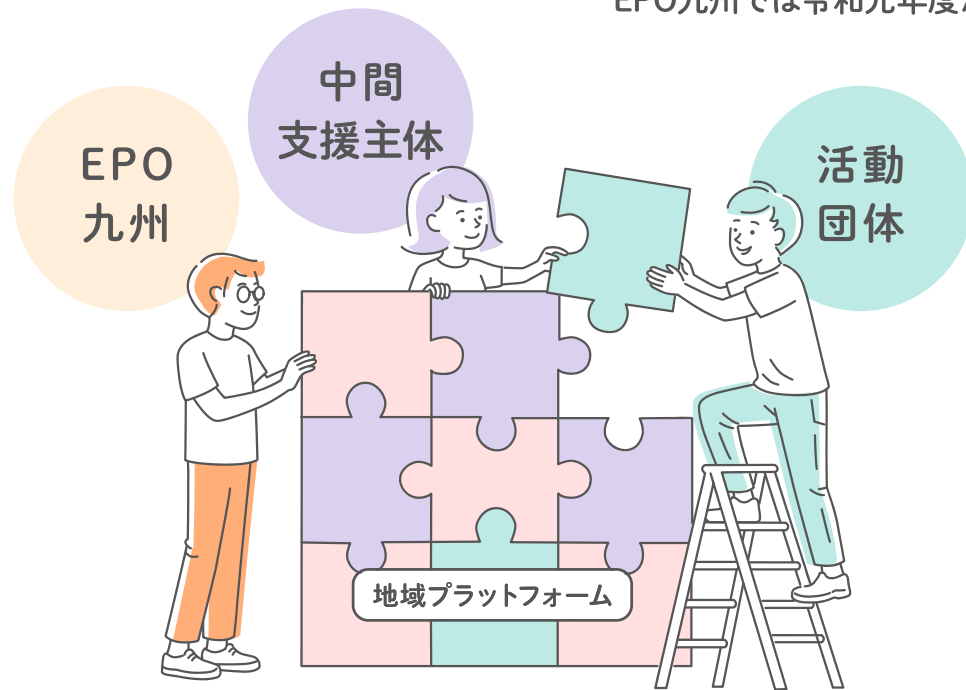
サーキュラーエコノミーをテーマに大学生向けのセミナーを開催し、身近な企業による資源循環の取り組みについて発信しました。このセミナーでは対面参加者と講師のコミュニケーションを密に行い、企業と学生の学び合いの場となりました。



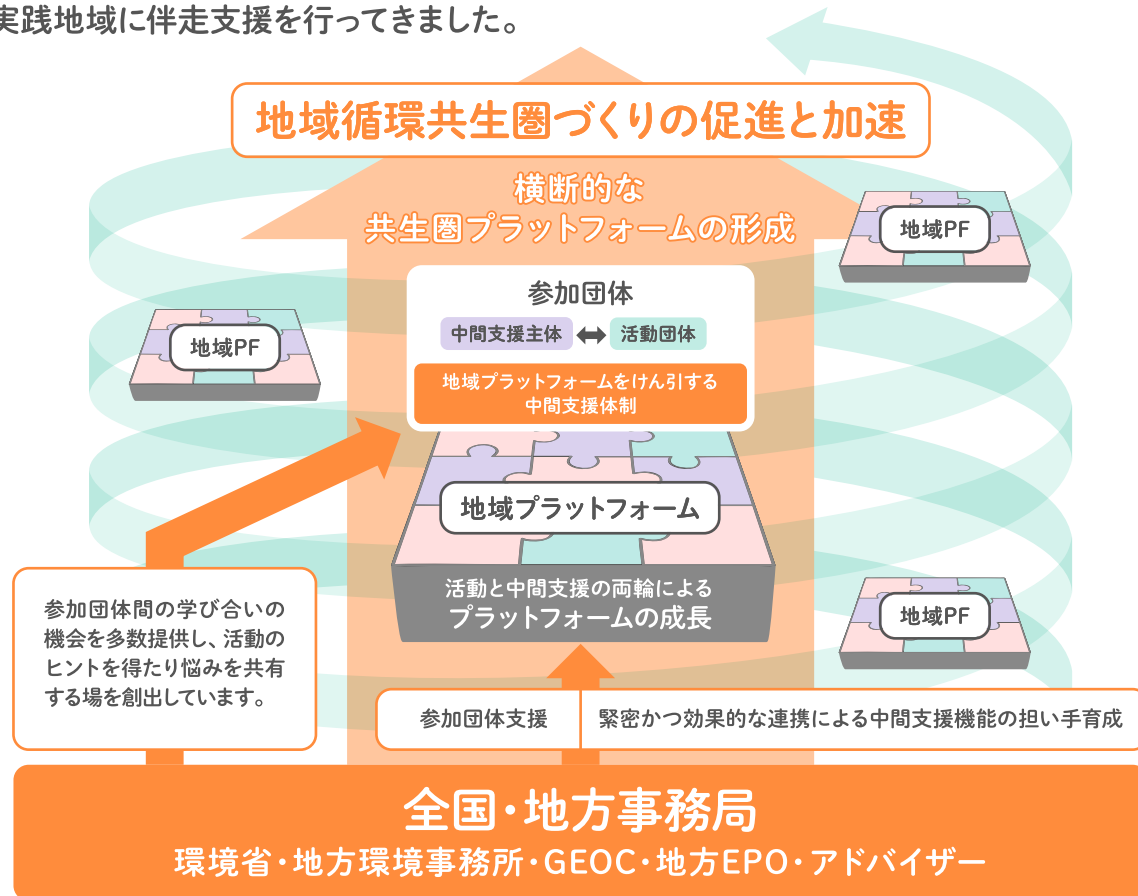
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

「地域循環共生圏」とは、各地域が豊かな自然環境などの地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合うことにより、地域の活力が最大限に発揮されることを目指す考え方です。

EPO九州では令和元年度から18の実践地域に伴走支援を行ってきました。



「地域プラットフォーム」を作るための取組(=活動団体の取組)と、その取組への中間支援(=中間支援主体の取組)がパートナーとなり、地域での共生圏づくりに取り組めます。EPO九州では、この中間支援主体と活動団体の一体となった共生圏づくりを支援しています。



年間を通じた地域循環共生圏づくり支援プロセス

伴走支援のプロセス

通年の支援活動

円滑な事業推進のためのヒアリング

- 現地訪問し参加団体の取組内容、課題、進め方を確認
- 支援体制構築事業の目的を共有し、支援計画を注視した助言

各地域でのステークホルダーミーティング開催支援

- 参加団体の実践内容と進捗に応じたテーマや目的の設計
- 中間支援主体が俯瞰して会合をセットできる体制支援

九州地方中間共有会

- 中間支援機能獲得の課題等を活動報告とワークショップで意見交換
- 事前会で団体間交流、共有会で個々の活動を深掘り

成果創出支援

- 成果共有会・ギャザリングに向けた成果のブラッシュアップ
- 次年度のステップアップに向けた協議

支援による効果

スムーズな事業着手、意欲形成

- 各団体の取組状況に応じた支援計画をアウトプット。
- 新規事業の理解度を高め、地域での合意形成を加速させる。



地域ビジョンの共有と課題整理

- 地域ビジョンを内外の関係者に発信し反応を獲得。
- 進捗とともに小さな成果を発信することで活動の前進を体感できる。



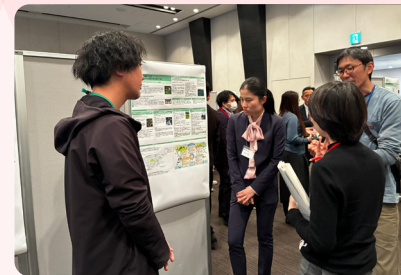
中間支援の振り返りと軌道修正

- 団体間のダイレクトネットワークを形成し、課題に応じた強化
- 自他事例による仲間づくり課題整理、年度後半に向けたモチベーションの向上



団体の成果をブラッシュアップ

- 全国モデルとなる成果の磨き上げ、年次報告の準備支援。
- 参加団体が中期的なビジョンを獲得し次年度の戦略を検討



EPOの通年での伴走支援
個別案件への相談対応
「EPOの打ち手」例

変革支援

- ネイチャーポジティブ有識者との意見交換の場設計
- 共生圏オンラインネットワーク活用

プロセス支援

- 新規の関係先への地域循環共生圏説明
- できたことチェックリスト確認

資源連結

- あさぎり関係者を唐津に接続
- 資金調達方法紹介

問題解決提示

- 壁打ちで問いを立て続ける
- 会議進行補助

九州地域の 参加団体



参加地域	佐賀県唐津市	熊本県あさぎり町	鹿児島県屋久島町高平地域
中間支援主体名	(一社) Beacon JAPAN	(株) 地方総研	NPO法人HUB&LABO Yakushima
活動団体名	唐津市	(株)あさぎり商社	(合)モスガイドクラブ
ありたい地域の姿	唐津市版地域循環共生圏の実現 ～多様な主体が積極的に連携・協力し 自然資本と調和した多様な”ビジネス”が 創出/共創される街づくり～	もったいないを活かす 地域に根付く 持続可能な価値づくり	山10日海10日里10日 流域の恵みでゆたかに暮らす 屋久島の流域循環モデルづくり
中間支援の打ち手	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内コーディネーター育成 ・ネイチャーポジティブ推進協議会の設立準備支援 ・企業や学者との接続 ・大学との連携によるNP政策の深化 	<ul style="list-style-type: none"> ・シンクタンクのネットワーク活用 ・活動団体運営体制の再構築支援 ・事業のタネ地域実装にむけた分科会設立 ・地域内ステークホルダーの連携機会創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・山・里・海のキーパーソン特定 ・「流域」の概念の共通言語化 ・ゼロからの対話の場づくり ・活動団体のプラットフォーム運営機能拡張

沖縄・奄美地域の 参加団体



参加地域	沖縄県石垣市	沖縄県八重山諸島	沖縄県中部地区
中間支援主体名	コラコラ(coralcollabo)	八重山離島の 物流課題解決プロジェクト	国立大学法人琉球大学
活動団体名	合同会社lagom	八重山離島配送協議会	中部地区和牛改良組合
ありたい地域の姿	自然と人の命を大切にする経済 が地域で循環する	観光地住民満足度向上を目指し 持続可能な物流システム構築	共同堆肥舎を中心とした 市民参加による地域循環型 農業促進事業
中間支援の打ち手	<ul style="list-style-type: none"> 活動団体とコラボできる団体や事業者をつなげる スムーズに活動できるように段取りや調整をする 実情に寄り添って、話を聞いたり一緒に考えたりする 	<ul style="list-style-type: none"> 協議や情報共有のための場の提供 ステークホルダー訪問を通じた信頼関係構築 AI活用等、様々な手法の試行 	<ul style="list-style-type: none"> 活動団体と行政のつなぎ役 勉強会や堆肥舎の見学会等を通じた目指すべきビジョンの提示 ヒアリング等を通じた信頼関係構築

地方環境事務所は、環境省の地方支分部局として全国8箇所に設置されています。

九州地方環境事務所は、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県を管轄区域として、管内には、沖縄奄美自然環境事務所のほか、阿蘇くじゅう、霧島錦江湾、奄美群島などの国立公園の各地に国立公園管理事務所、自然保護官事務所などが設置されています。

【環境政策】



地域脱炭素

地域脱炭素創生室では、地域の魅力と質の向上や地方創生に資する地域脱炭素を推進しています。



資源循環

資源循環課では、廃棄物の不法投棄や不法輸出入をなくし、地方公共団体と一体になって3Rや適正処理を推進しています。



環境保全対策

環境対策課では、地域の自主的な環境保全活動の取り組みを推進し、環境パートナーシップの構築、地球温暖化防止に関する普及活動に取り組んでいます。



自然環境の保護管理

国立公園課では、重要な自然景観や、多様な生態系の保全・再生に取り組み、地域の自然や文化とのふれあいを深めるための下記の施策を展開しています。



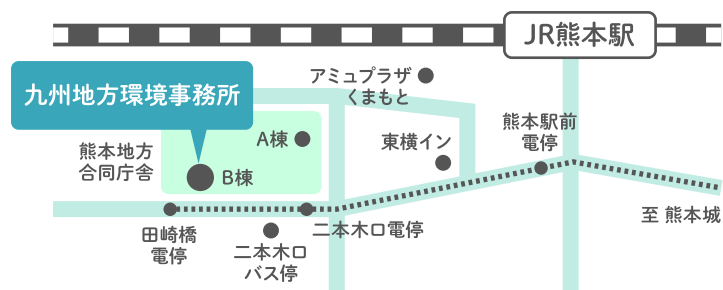
野生生物の保護管理

野生生物課では、地域の産業や生活との共存を図りながら、多様な野生生物の保護管理を行うとともに、外来生物対策等に取り組んでいます。



自然環境の整備

自然環境整備課では、国立公園等における自然環境整備を推進するとともに、適切な保全管理に取り組めます。



九州地方環境事務所

熊本県熊本市西区春日2-10-1 熊本地方合同庁舎B棟4階

URL <https://kyushu.env.go.jp/>



沖縄奄美自然環境事務所

沖縄県那覇市樋川1-15-15 那覇第一地方合同庁舎1階

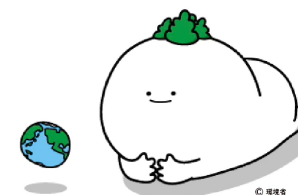
URL <https://kyushu.env.go.jp/okinawa/>

自然共生サイトについて

自然共生サイトは、令和7年4月から地域生物多様性増進法として法制化され、増進活動実施計画または連携増進活動実施計画として申請して頂き、生物多様性に資する場所として認められれば、主務大臣（環境・国交・農水）が認定する制度として進められています。

九州内（沖縄を含む）では、海域、里山、棚田、畑、社寺林、山林、公園、工場緑地等の場所が自然共生サイトとなり、現在、62件（令和8年3月時点）を数えるまでに至りました。こうした企業・団体等による活動が、ネイチャーポジティブの推進に繋がっています。また、企業等にこうした活動に積極的に参画いただくため、自然共生サイトの活動を支援した企業等に対して国が支援証明書を発行しています。

自然共生サイトは、様々な立場の方に参画いただける制度であり、30by30の達成、さらにその先の「持続可能な生活空間の実現」を目指すものです。申請を考えている方、自然共生サイトのご相談は、九州地方環境事務所にお問い合わせください。



環境省のウェブサイトでは、自然共生サイトに認定されたサイト一覧を事例とともに紹介しています。

（両事務所共通）

E-mail CN-KYUSYU@env.go.jp



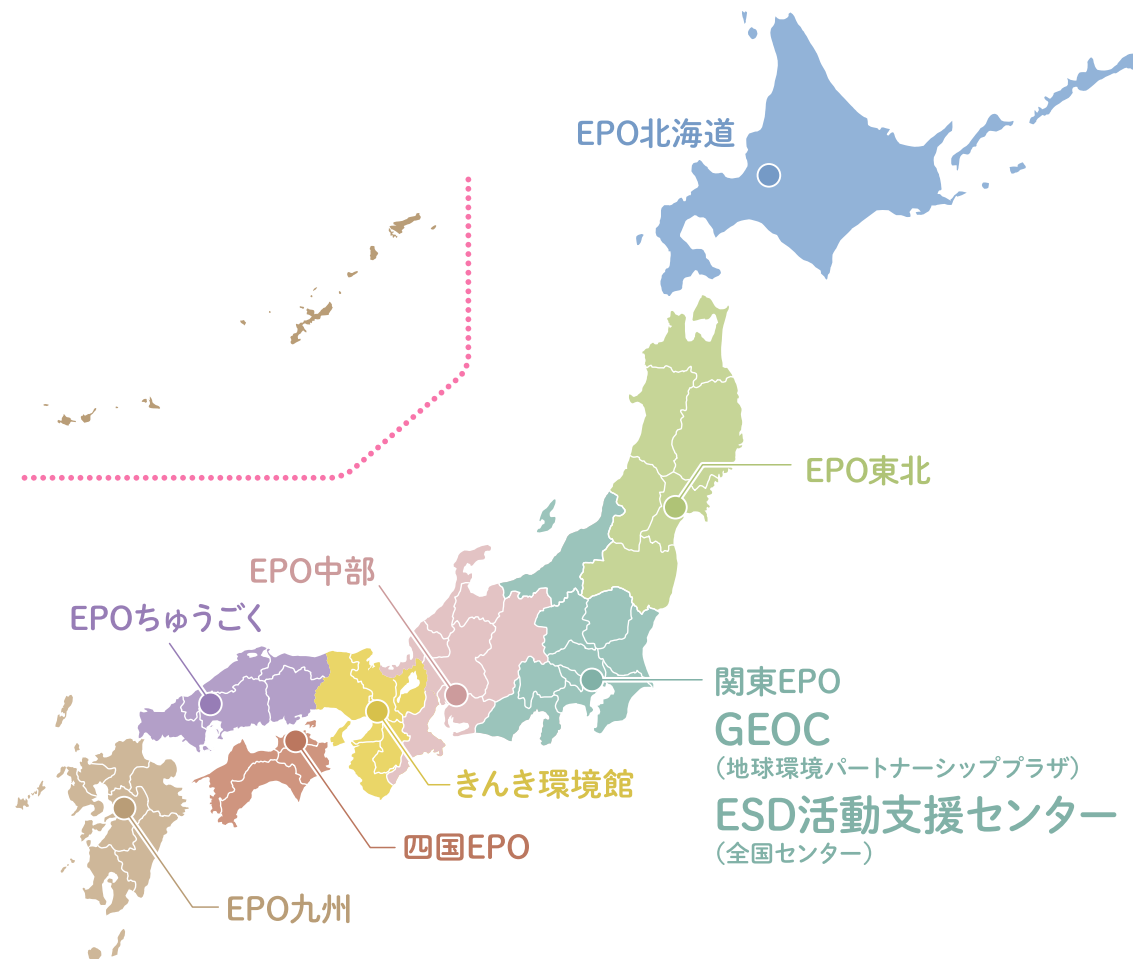
8 EPO+GEOCがつなぐ全国EPOネットワーク

地方環境パートナーシップオフィス（EPO）は、北海道から九州・沖縄まで8つのブロックに設置され、地球環境パートナーシッププラザ（GEOC、国連大学ビル1F）とともにEPOネットワークを構成しています。

EPOネットワークでは、環境教育等促進法をはじめ、環境基本計画等の環境政策に基づき展開される全国事業や地球環境基金をはじめとする連携団体・機関と協働したプロジェクトに取り組んでいます。

多くの団体が協力して社会課題を解決する「コレクティブインパクト」の実現に向けて、EPOネットワーク間では日頃から情報交換を行い、全国EPO連絡会で関係するステークホルダーとの対話を促進させ、事業の方向性や進捗共有を行うなど、地方と全国をつなぐプラットフォームの役割を担っています。

各ブロックにESD活動支援センターも併設され、地域ESD活動推進拠点やESD活動に取り組む様々な主体とのネットワークをもとに、ESDの普及や人材育成を推進しています。



ESDとは・・・Education for Sustainable Development(持続可能な開発のための教育)の略称。環境、人権、平和など現代社会の問題を自らの課題としてとらえ、将来にも目を向け行動する態度や能力を育む学習・教育活動です。

EPO九州・九州ESDセンター 活動の悩みを解決！ SDGs／ESDコンシェルジュとして ご相談をお受けしています

EPO九州・九州ESDセンターでは、持続可能な社会づくりの推進に向けた、
市民・行政・NPO・企業などが相互に連携・協働した取り組みを応援しています！

連携
ネット
ワーク

九州・沖縄のビジターセンター、地球温暖化防止活動推進センター、環境カウンセラー協会、
地域ESD拠点など、地域や専門分野に応じたネットワークをご紹介します。
※専門家等による講演等をご依頼の場合は、謝金・旅費などが必要となります。

その情報、価値がアリ☒。知らせたいコト、知りたいコトをつないで発信！

EPO九州・九州ESDセンターでは、ウェブやSNSを活用し環境省の情報や民間助成をはじめ、
九州・沖縄のサステナブルな取り組みをお知らせしています！



九州地方
ESD活動支援センター

九州地方環境パートナーシップオフィス (EPO九州)

TEL 096-312-1884 E-mail info@epo-kyushu.jp URL https://epo-kyushu.jp

九州地方ESD活動支援センター (九州ESDセンター)

TEL 096-223-7422 E-mail contact@kyushu-esdcenter.jp URL https://kyushu.esdcenter.jp

FAX 096-312-1894 (EPO九州・九州ESDセンター共通)

〒860-0806 熊本中央区花畑町4-18 熊本市国際交流会館2F 業務時間 10:00～18:00(火～土曜日)
休業日 日・月曜日、祝日、年末年始。熊本市国際交流会館休館日。(ただし、臨時休業する場合があります。)

こんなお悩みありませんか？

協働・パートナーシップを加速させたい・・・

先進地域のパートナーシップ
形成事例をご紹介します！

人材育成の企画を検討したい・・・

環境教育・ESDの考え方を
取り入れた企画を提案！

助成金情報を団体に届けたい・もらいたい・・・

九州・沖縄の活動団体に
情報提供します！

SDGs / ESDに関する課題解決に向けて、さまざまな分野や地域のネットワークを活かし、活動の支援を行っています。講師や専門家の紹介、人材育成のサポート、各種情報の提供や発信協力など、ワンストップのコンシェルジュとして皆さまをサポートします。まずは「知ること」から始めたい方も、ぜひお気軽にお問い合わせください。

交通アクセス



2026年3月発行

